

神美村に伝わる民謡の分析

Analysis of the folk song which gets across to Kamiyoshi
village

茨木金吾

Kingo Ibaraki

はじめに

神美村誌編纂委員会が昭和 32 年に発刊した神美村誌（兵庫県出石郡）の中に、現在では伝承する者もなく、採譜することが難しい民謡が単独譜表ではあるが数曲採譜され、記載されている。

神美村（穴見谷地区が分村し、豊岡市に編入）は 1957 年 9 月 1 日に出石町、室埴村、小坂村と合併して出石町が発足するまでは但馬国出石郡神美村としての自治をおこない、但馬の中にあっても中心的な自治行政の地であった。

その神美村に伝わる民謡は作詞者、作曲者共に不詳であり、作られた年代もあきらかでない楽曲が多く、歌詞のみが残り、譜表と併せて採譜されたものは少ない。それら譜表として残らない民謡の歌詞群から神美村に伝わる民謡の傾向をあきらかにすることは難しく、譜表として採譜していくことが分析を進めていく上での重要な作業であるが、その歌詞に併せた旋律を伝承出来る者を探すことは極めて難しく、採譜することを困難な状況にしている。

現在、神美村に伝わる民謡¹⁾として歌詞が伝承されているものが“田植歌「鶴の子」”“嫁入唄”“盆踊り唄「ヤチャ」”“香住盆踊り唄”“田の草取り歌”“松坂”“うすひき唄”“から白つき節”の 8 楽曲であり、譜表を併せて残すものが“田植歌「鶴の子」”“嫁入唄”“松坂”の 3 楽曲であり、残りの 5 楽曲を採譜出来ない限り、この 3 曲によって楽曲構成の分析をせざるを得なく、決定的な結論を得るまでには至らないものの推論を得ることまでは可能ではないかと思われる。

そこで本稿は譜表として残るこの 3 楽曲を「日本音楽の音楽理論」に基づいて分析し、神美村に伝承される民謡の楽曲構成の傾向を探り、神美村民謡の一端にふれることとした。また、近畿大学豊岡短期大学論集第 5 号と第 6 号で分析した豊岡市に盆踊り唄として伝承される二大民謡“べろべろ節”³⁾“松坂節”⁴⁾との楽曲構成上の関連性についても、その楽曲構成を比較することにより分析し、豊岡市に伝わる伝承民謡と神美村に伝わる伝承民謡の接点をも見つけることとした。

それら分析を通して、神美村に伝わる民謡の楽曲構成の傾向と豊岡市に伝わる民謡との関連性について一つの推論を得ることができたので報告する。

調査方法

- 調査楽曲：神美村に採譜され、伝わる伝承民謡3曲¹⁾
 - ①松坂 ②嫁入歌 ③田植歌「鶴の子」
- 調査方法：豊岡民話耳ぶくる(友田眞一、尾形多漢津、小谷茂夫、大垣三郎、中嶋忠雄、山本兵治、松岡重夫、足立栄一、宮岡房次郎編集 豊岡市老人連合会発行)に神美村誌に残る伝承民謡が3楽曲掲載されており、それらを「日本音楽の音楽理論」に基づき分析を試み、神美村に伝わる伝承民謡の楽曲構成の傾向を探った。また、近畿大学豊岡短期大学論集第5号と第6号で分析した“べろべろ節”“松坂節”についても併せて再分析し、神美村に伝わる伝承民謡と豊岡市に伝わる伝承民謡の楽曲構成につて、その関連性を対比比較することによって探った。

調査結果及び考察

今回の調査によって得ることの出来た楽曲が譜例1の“松坂”、譜例2の“嫁入歌”、譜例3の“田植歌「鶴の子」”であり、今回の調査のために再分析した楽曲が譜例4の“べろべろ節”と譜例5の“松坂節”である。

これら楽曲は様々な手法で分析することが可能であるが、共通な構成点を見つけるということに視点を置き、日本の音楽理論の中のひとつである「呂と律の五音音階」「上原六四郎の陽旋法と陰旋法」「小泉文夫の四種のテトラコルド」²⁾に基づいておこなった。それを簡略に表したものが図-1の日本の音楽理論である。

日本の音楽理論

※田中健次著「ひと目でわかる日本音楽入門」(音楽之友社)より

The figure displays musical notation for several concepts in Japanese music theory. It includes two examples of the five-note scale (五音音階) for '呂' (Ryū) and '律' (Ryū), with notes labeled 宮 (Mi), 商 (Shō), 角 (Kaku), 徵 (Shi), and 羽 (Hō). It also shows the '陽旋法' (Yōsenpō) and '陰旋法' (Insenpō) scales by Uehara Rokuro, and four types of 'テトラコルド' (Tetrads) by Koizumi Fumio: 民謡的 (Min'yō-teki), 和歌的 (Waka-teki), 流 (Ryū), and 沖縄的 (Okinawa-teki).

図-1 日本の音楽理論

(譜例 1)

松 坂

神美村誌より

いっ ぽ んめ ー ー に は ー い けー の ま つ に ー ほ ん め ー
 に は ー に わ の ま ー つ ハ ア イ ヤー ア ト セ ー イ ヤー ア ト セ
 こ れ で ま つ き か を ー た の ん だ ー え ー ー ー ー
 ま つ ぞ か ー お ー え ー た ー ヤー ア ト セ ー ヤー ア ト セ

- 呂の五音音階により構成されている部分
- 律の五音音階により構成されている部分

「松 坂」

一本目には池の松 二本目には庭の松 ハア イヤトセ
 これで松坂をたのんだえ 松坂をたのんだえ ヤアトセ ヤアトセ

神美村誌より

(譜例 2)

嫁 入 唄

神美村誌より

お ー も い ー ー ー ー き ー ー ー り ま す こ の や の ー う ち ー を ー
 ー こ ん ど ー ー ー く る ー と き や ー え ー ー ー ー む こ ー つ れ ー て ー ー ー ー

- 律のテトラコード
- 律のテトラコードの一端が見られる進行
- 律音階
- 律のテトラコードに該当しない音

「嫁入唄」

- 門出
- 一、 思い切りますこの家の内を 今度来るときや一揃つれて
 - 二、 鏡はとめ竹子はと仲の水 瓶がやりや行くや一どこまでも
 - 三、 嫁や花よと育てた娘 今日他人のや一手にかける
 - 四、 釜を片手に徳縁さらば ながのお世話にや一なりました
 - 五、 とろりなしや とろりと出た声なれど 今は出もせぬや一声までも
- 入込み
- 一、 今日は何日柄もようて 連れて来ましたや一花嫁を
 - 二、 どよよとこよと 尋ねて来たら 此所がお女中のや一部屋なるか
 - 三、 自出度し 自出度しが三つ重なりて 鏡が御門にや一葉をかける
 - 四、 鶴がな 御門に葉をかける 池はお庭でや一舞をまう
 - 五、 お新百まで わしや九十九まで 共に白船のや一はえるまで

神美村誌より

(譜例3)

田植歌「鶴の子」

神美村誌より

つるのこが ああええ
あすだつ ああえお どこ
よえあれやま とやま
あやはた
のもりのおもりの
あれわかまつのえだ

□ 呂の五音音階により構成されている部分

■ 律の五音音階により構成されている部分

「田植歌（鶴の子）」

- 一、鶴の子育つほどこよ 大和太和や はたの森よ 若松の枝に
- 二、日は照るともみの森 もてやれしのはらの いざさの露の 雨の降る如し
- 三、早乙女衆は小ひるまを待つ 船方は帆柱立て 風の手を待つ
- 四、面白や衆には車 淀には舟 かつらの里で むかい舟しようや
- 五、日の暮れに海辺行けば千鳥なく 又なけ千鳥 声しらべばや 千鳥

神美村誌より

(譜例 4)

へろへろ節

□ 岳の五音音階により構成されている部分

へろへろ節 (豊岡民謡耳ぶくろより)

へろや へろへろや へろや へろや へろや へろへろや へろや へろや へろやえ
 へろの変わり節や 面白節で おやし出て 見やれ 後つれて
 へろたるま 一しそらた 踊り子が 柳行季に 柳かこ 柳いで 踊り子
 豊岡の 名産 一しそらた 本郷の 湯水 我めば 氣もよし 涼やかに
 豊岡に 出た 出た 但馬の 富士にて 須原の 妻が 豊川に 湯やかこ
 豊岡の 湯水 一しそらた 但馬の 富士にて 須原の 妻が 豊川に 湯やかこ
 豊岡の 湯水 一しそらた 但馬の 富士にて 須原の 妻が 豊川に 湯やかこ
 踊りおどるや 立野の 地に ヤーレ 狭い 氣を持つな 広い 芭蕉葉の 氣を持ちやれ
 さきや松の葉の ように ヤーレ

(譜例 5)

松坂節

□ 律の五音音階により構成されている部分

豊岡の「松坂節」 (豊岡民謡耳ぶくろより)

豊岡の町をめぐりて 湯れゆく、
 丹山川は上つ代に、但馬の水を海願え、
 悠ら五ひし神々の、霊験業(わざ) 御恵みを
 施ゆるばかりの嬉しさは、誰しもそれと三閑きの
 富士の山程幸福を積んで 渡るや京口の
 橋を渡りて新町の、桜見よなら加道、
 小蓬崎へて豊田町、万(よろず) 丹田の橋へて、
 遠すもとの遠しさは、何時もこらの立野橋、
 常野町まで向山の新地に 草が 樹げあんど、
 堀田橋の堀り糸、暖めゆかしき花園に、
 柳行季の久保町を、いつしか過ぎて色町の
 玉のよわいを 亀山と、お堀 願様の 金山へ、
 本懐達げし 籠士の 藝、名は 未代と 園々に、
 柳細工と 諸共に、広まりゆくぞ 芽出度けれ

1. 神美村誌に残る伝承民謡について

調査楽曲として神美村誌に採譜され、譜表として残る伝承民謡3曲を日本の音楽理論の中のひとつである「呂と律の五音音階」「上原六四郎の陽旋法と陰旋法」「小泉文夫の四種のテトラコード」に基づいておこなった結果、次のようなことがわかった。

“松坂”は「呂と律の五音音階」の理論が適応でき、呂の五音音階により構成されている部分(E \flat ・F・G・B \flat)と律の五音音階により構成されている部分(B \flat ・C・E \flat ・F)が混在し、その大半は律の五音音階で作られたものであることがわかる。

“嫁入唄”は「小泉文夫の四種の基本テトラコードの理論」が適応でき、出だし部分は律音階(D・E・G・A・B・D)で構成され進行している。また、部分部分で律のテトラコードが見られたり、律のテトラコードの一端が見られることからこの楽曲は律音階により構成されていることがわかる。ただ、後半部分に律音階にないC \sharp が出てくるのが気になるところだが、楽曲構成を律音階と判断して間違いないところであろう。

“田植歌「鶴の子」”は「呂と律の五音音階」の理論が適応でき、楽曲の出だしから前半の部分が呂の五音音階(D・E・F \sharp ・A・B)で構成され、2段目2小節の後半から律の五音音階(D・E・G・A・B)により構成されていることがわかる。このことからこの楽曲は呂の五音音階と律の五音音階が合体した形で作られており、“松坂”で得られた結果と同一性をみることができる。

これらのことから神美村誌に残る伝承民謡は律音階を中心に作られており、効果的に曲の導入部分に呂音階を取り入れて作られている傾向にあると推察できる。

2. 豊岡市に伝承される二大盆踊り唄“べろべろ節”“松坂節”について

豊岡市に伝承される二大盆踊り唄“べろべろ節”“松坂節”については「呂と律の五音音階」の理論が適応でき、再分析の結果、“べろべろ節”は呂の五音音階(C・D・E・G・A)で作られており、“松坂節”は律の五音音階(D・E・G・A・B)で作られた楽曲であり、それぞれの五音音階でのみ楽曲全体を構成していることがわかる。

3. 神美村誌に残る伝承民謡と豊岡市に伝承される二大盆踊り唄“べろべろ節”“松坂節”との接点について

神美村誌に残る伝承民謡である“松坂”“嫁入歌”“田植歌「鶴の子」”の3曲と豊岡市に伝承される二大盆踊り唄“べろべろ節”“松坂節”を日本の音楽理論の中のひとつである「呂と律の五音音階」「上原六四郎の陽旋法と陰旋法」「小泉文夫の四種のテトラコード」に基づいておこなったが、豊岡市に伝承される二大盆踊り唄は呂の五音音階、あるいは律の五音音階でのみで作られた楽曲であり、神美村に伝承されている民謡は、曲の導入部分に呂の五音音階を取り入れた律の五音音階の構成になっており、呂と律が混在した作られ方をしていることが3楽曲中2楽曲に見られたことから推察でき

る。このことは豊岡市に伝承されている民謡と神美村に伝承される民謡の相違点であり、神美村に伝承される楽曲の特徴であると捉えることが出来る。ただ、“嫁入唄”については律音階でのみ作られており、豊岡市に伝承される民謡と同一の楽曲構成され方を見ることができた。

要 約

神美村に伝わる民謡として残るもののなかに歌詞のみが伝承されているものが“盆踊り唄「ヤチャ」”“香住盆踊り唄”“田の草取り歌”“うすひき唄”“から臼つき節”の5楽曲であり、譜表を併せて残すものが“田植歌「鶴の子」”“嫁入唄”“松坂”の3楽曲である。伝承されている楽曲を分析するためにはその地に伝承される楽曲を全曲分析する必要があるが、伝承できる者がいない現在、この3曲により分析をせざるを得なく、決定的な結論を得るまでには至らないまでも推論を得ることまではできるとの思いから分析と考察を試みることにした。

本稿は譜表として残るこの3楽曲を「日本音楽の音楽理論」に基づいて分析し、神美村に伝承される民謡の楽曲構成の傾向を探ることから始め、近畿大学豊岡短期大学論集第5号と第6号の中で分析した豊岡市の伝承民謡である“べろべろ節”“松坂節”を再分析し、その分析結果を比較対照することによって神美村に伝わる伝承民謡の一応の作られ方を知ることができた。

それは、豊岡市に伝承されている民謡と今回調査を行った神美村に伝承されている民謡はその作られ方が異なり、豊岡市に伝承されている民謡が呂の五音音階、あるいは律の五音音階で作られた楽曲であるのに対して、神美村に伝承されている民謡は、曲の導入部分に呂の五音音階を取り入れた律の五音音階の構成になっており、呂と律が混在した作られ方をしていることを見て取ることができた。このことは豊岡市に伝承されている民謡と神美村に伝承される民謡の相違点であり、神美村に伝承される楽曲の特徴であると捉えることができた。ただ、“嫁入唄”については律音階でのみ作られており、豊岡市に伝承される民謡と同一の楽曲構成が見られたことから隣接する地域との混在が考えられ、譜表がなく歌詞のみで存在している楽曲は、神美村に伝承される楽曲の特徴を持つ楽曲であるか隣接する地域に混在した特徴を持つ楽曲であるかのいずれかに分類できるのではなかろうかと推察できた。今後の課題として、歌詞のみで伝承されている楽曲の譜表の採譜をおこない、この推察を検証していきたい。

引用文献

- 1) 友田眞一 尾形多藻津 小谷茂夫 大垣三郎 中嶋忠雄 山本兵治 松岡重夫 足立栄一 岡房次郎：豊岡民謡耳ぶくろ、1-256, 豊岡市老人連合会(兵庫), 1975
- 2) 田中健次：一日でわかる日本音楽入門、1-175, 音楽之友社(東京), 2003
- 3) 茨木金吾：盆踊り唄「べろべろ節」の採譜と分析、1-13, 第5号, 近畿大学豊岡短期大学論集、近畿大学豊岡短期大学, 2008

- 4) 茨木金吾：盆踊り唄「松坂節」の採譜と分析, 9-18, 第6号, 近畿大学豊岡短期大学論集、近畿大学豊岡短期大学, 2009

参考文献

- 1) 黒沢隆朝：楽典、11-227, 音楽之友社(東京), 1966
- 2) 東洋音楽学会：東洋音楽研究第20号、1-192, 音楽之友社(東京), 1969
- 3) 早稲田みな子：南カリフォルニアの盆踊り, 62-78, 第52巻1号, 音楽学、日本音楽学会, 2006
- 4) 高柳蓀子：拾い読みする囃子言葉、「かばん」特別号 特集オノマトペ, 三月書房(東京), 1997
- 5) 服部龍太郎：日本民謡全集、1-320, 角川文庫(東京), 1965
- 6) F.T.Piggott, 服部龍太郎訳：日本の音楽と楽器、1-253, 音楽之友社(東京), 1968
- 7) 吉川英史：日本音楽の歴史、1-469, 創元社(大阪), 1971
- 8) 町田嘉章・浅野建二：日本民謡集、1-220, 岩波文庫(東京), 1960
- 9) たじまのうたまつり実行委員会：たじまのうた 第1集、1-100, たじまのうたまつり実行委員会, 2006
- 10) たじまのうたまつり実行委員会：たじまのうた 第3集、1-100, たじまのうたまつり実行委員会, 2009